

JA全農ウィークリー

J A Z E N - N O H W E E K L Y



2面

新ブランド
「TamagoFun」
2商品発売
(JA全農たまご(株))

3面

水稻乾田直播栽培の
展示圃設置へ
(宮城県本部)

Web版
JA全農ウィークリーは
こちらから



<https://www.zennoh-weekly.jp/>

News!



新ブランド「TamagoFun」2商品発売

手軽に作れる「ふわとろオムレツ」「たまごサラダ」

JA 全農たまご(株)



「ふわとろオムレツ」



「TamagoFunロゴ」



「たまごサラダ」

JA全農たまご(株)は、「たまごのおいしさを手軽に楽しんでもらいたい」という思いから生まれた同社の新ブランド「TamagoFun」から新商品「ふわとろオムレツ」と「たまごサラダ」を発売しました。

同商品は、仕事や家事で毎日忙しい中でも、手軽に

した。

「ふわとろオムレツ」は、電子レンジで温めるだけで、レストランでも人気のふわとろタイプのオムレツを誰でもおいしく作ることができ、ご家庭で簡単に楽しめる商品です。

「たまごサラダ」は、忙しい朝にちよつとしたぜいたくをプラスする商品で、そのままパンにはさむだけでサンドイッチが完成します。袋を開けてそのまま食べることができるので、調理の手間もかからず、ボウルやフライパンなどの洗い物も不要です。

News!



「ハウスぶどう防除研究会」を開催

天敵農薬を利用した防除体系について意見交換

耕種資材部

2日目の圃場視察



全農は1月17、18日、山梨県笛吹市と山梨市で「ハウスぶどう防除研究会」を開催し、JAの営農指導員や農薬メーカーなど関係者ら約100人が参加しました。

ハウスブドウ(特に「シャインマスカット」栽培にお

研究が進んでいます。

ける重要害虫であるハダニ類は、薬剤抵抗性の発達により防除に有効な化学農薬が限られており、天敵であるミヤコカブリダニや天敵保護資材「バンカーシート」などを活用した防除体系の研究が進んでいます。

1日目は、農研機構からミヤコカブリダニの特徴や天敵を有効活用するために必要な有機マルチ資材による湿度管理の事例を紹介。JAおおいたからは、バンカーシートを利用した病害虫防除の取り組み報告がありました。全農からは、化学農薬と天敵を併用したIPM(総合防除)プログラム構築を目指す実践圃試験の提案を行いました。

2日目は、有機マルチ資材を使用している生産者の圃場視察を行いました。

全農はこれからもハウスブドウ栽培における生産者課題の解決に向けた取り組みと産地間交流を進めていきます。



水稲乾田直播栽培の展示圃設置へ

JAグループ宮城と農研機構・宮城県が連携

宮城県本部

宮城県本部は、乾田直播栽培試験展示圃^ほを設置するにあたり1月16日、全体計画会議を開催しました。

農研機構、宮城県庁、県内各地区普及センター、生産法人、JA、農機メーカーなど総勢48人が参加。農研機構から乾田直播栽培の作業ポイントについて講演がありました。県本部からは県内8カ所にある展示圃の試験概要や施肥防除体系、全農が推進するザルビオ[®]フィールドマネージャー（以下、ザ

ルビオ）を活用した栽培管理などを説明しました。

この取り組みでは、県内水稲直播栽培面積の中でも増加が著しい乾田直播栽培に特化した展示圃を設置。展示圃では「ひとめぼれ」「ササニシキ」の主要品種以外に飼料用米・WCS（ホールクロップサイレージ）用稲も栽培予定です。

施肥防除は多様な肥料や低コスト農薬の試験を実施し、農薬・化学肥料の節減栽培を乾田直播で挑戦する計画です。また、ザルビオの活用により乾田直播栽培データを蓄積していきます。

現在本県での乾田直播栽培技術は各地域で独自に取り組んでおり、県域として統一されていません。今回の試験展示圃によりこの技術を普及し、栽培技術・収量・品質の向上と安定を図り、生産振興につなげることを目指します。



総勢48人が参加した全体計画会議



大間々肥料工場で配合設備増設竣工式

適正施肥と省力化へ「セルフブレンド」体制を強化

JA 東日本くみあい飼料(株)・耕種資材部

JA 東日本くみあい飼料(株)^{おおま}大間々肥料工場（群馬県みどり市）は2月9日、配合設備増設にあたり竣工式^{しゅんこう}を行いました。セルフブレンド（施用者委託配合肥料）の生産体制の増強を図ります。

同社では、適正施肥と省力化ニーズに応えるため、1996年よりセルフブレンド事業を展開しています。

計画生産を行っても生産能力が追い付かないことが課題でした。

今回、原料投入から配合・包装まで一貫して行うことができる機械設備を工場の隣に増設。増設設備では無機肥料を、既存設備では有機肥料を配合できるようにし、同時に二つのラインを稼働させることで生産体制の増強を図ります。

これによりセルフブレンドの生産能力は、現在の年間5000トから将来的に年間1万トまで増産可能な体制となります。



増設した新設備で行われた竣工式

今後もセルフブレンド事業を基軸として生産者の声に的確に応えるための取り組みを行っていきます。

News!



イチゴ主産地9県が合同物販フェア

ブランドイチゴの食べ比べ詰め合わせを販売

園芸部

澤光青果テラスモール湘南店での合同物販フェア
(2月3日)



情報交換会は、国産イチゴが潤沢に出回る時期に合同で販促イベントを実施しています。今回は「もっちゃん」「ここにこベリー」「いばらキッス」「とちおとめ」「ちあいか」「スカイベリー」「紅ほっぺ」「きらび香」「草姫」「博多あまおう」「いちごさん」「ゆめのか」「ゆづべに」「恋みのり」の14品種のブランドイチゴが登場。

3日は4品種を組み合わせた「いちご食べ比べアソートケース」、17日は2品種を詰め合わせた「平パックアソートケース」を販売しました。多様なブランドイチゴを前に悩むお客の姿も見られるなど、両日、予定より早く売り切れるほど大好評でした。

イチゴの主産地9県(宮城、茨城、栃木、静岡、愛知、福岡、佐賀、長崎、熊本)の県連・県JA・全農で構成する「いちご主産県情報交換会」(事務局・園芸部)は2月3日と17日、澤光青果、東京青果の協力のもと、澤光青果テラスモール湘南店(神奈川県藤沢市)と同ソラマチ店(東京都墨田区)で「2024年いちご主産9県合同物販フェア」を開催しました。

News!



JA女性組織考案のおむすび、発売に先立ち発表会

JA邑楽館林の「群馬県産豚肉 肉みそおむすび」、ファミリーマートで発売

群馬県本部

おむすびを試食するJAの役員とJA女性組織の部員ら



おむすびの販売開始に先立ち、開催された発表会にはJA役職員や近隣ファミリーマート関係者・本会関係者ら34人が参加しました。おむすびを考案した堀口葉

子支部長からは、「子どもの頃、母がよく作ってくれた懐かしい味を再現した」といった考案の背景が語られました。

また、おむすびを試食した参加者からは「幅広い年齢層に好まれる味付けでおいしい」「求めやすい価格と万人に好まれる味付けで、発売が楽しみ」と好評でした。

群馬県本部は1月23日、JA邑楽館林本所で開催されたJA女性組織考案の「群馬県産豚肉 肉みそおむすび」の発表会に参加しました。全農は(株)ファミリーマートと協業し、JA全国女性組織協議会に所属する各地域のJA女性組織と共に共同開発したおむすび全8種類を各地域のファミリーマートで2月6日から販売しています。



群馬県産豚肉肉みそおむすび

第19回全農全国高等学校カーリング選手権大会を開催

氷上での熱き戦いを制したのは、青森・長野合同と北海道選抜

全農は2月8～11日、青森市のみちぎんドリームスタジアムで開催された「第19回全農全国高等学校カーリング選手権大会」に特別協賛しました。男女合わせて10チーム46人の高校生が青森市に集結し、全24試合の熱戦が繰り広げられました。【広報・調査部】



大会に参加した選手たち



選手控室に設置したもぐもぐブース



男子優勝チームの「青森・長野合同」

女子優勝チームの「北海道選抜」

大会結果

順位	男子	女子
優勝	青森・長野合同	北海道選抜
準優勝	軽井沢高等学校	広島・青森・岩手合同
3位	名寄・南富良野選抜	長野県選抜

男子決勝は青森・長野合同と軽井沢高等学校が対戦し6-4で青森・長野合同が優勝、女子決勝は北海道選抜と広島・青森・岩手合同が対戦し、9-1で北海道選抜が優勝しました。

表彰式では、全農から優勝・準優勝・3位のチームへ副賞として青森県産米「青天の霹靂」^{へきれき}「はれわたari」、「青森県産和牛サーロインステーキ」を贈呈しました。また、全出場選手へ参加賞として、包装もちやニッポンエール商品などを贈呈し、出場選手を「ニッポンの食」で激励しました。

また、試合前後やハーフタイム中の栄養補給のために、選手控室にもぐもぐブースを設置し、「青天の霹靂」を使用したおむすびや、カットリング、全農ブランド商品な

どの食材を提供しました。

決勝戦の様子はYouTubeでアーカイブ配信しています。高校生カーラーの熱戦をぜひご覧ください。全農はこれからもアスリートの健康づくりやスポーツ選手の育成をサポートしていきます。

「日刊スポーツ」のYouTubeチャンネルでの発信

男子決勝戦は
こちらから



女子決勝戦は
こちらから



令和5年度 全農の主な取り組み「第5回」

令和5年度の全農の主な取り組みを紹介します(全5回)。

営業開発部

商品を通じて産地を応援する
ニッポンエールプロジェクト協議会

全農は、商品を通じて産地を応援する「ニッポンエールプロジェクト」の取り組みを発展・拡大していくため、カテゴリーの異なる食品メーカーが同じテーマで商品を開発・販売する「ニッポンエールプロジェクト協議会」を設立しました。

伊藤園	大間	ビックルス コーポレーション	不二家
清涼飲料水 「長野県産りんご三兄弟PET400g・280g」	「りんごにごり酒」 300ml	「長野県産りんご三兄弟果汁使用 国産白菓キャンディ」	「ご褒美ハードチョコレート （りんご三兄弟）」
山崎製パン	全農食品		
「ランチパック（アップルカスタード）長野県産りんご」	「りんごあんぱんご（長野県産りんご三兄弟）」	「長野県産りんご三兄弟ゼリー」	「長野県産りんご三兄弟キャンディ」

第2弾「長野県産りんご三兄弟」をテーマとした商品

第1弾として2023年5月に「宮崎県産日向夏」、第2弾として同年10月に「長野県産りんご三兄弟」をテーマとした商品を協議会に参画する各メーカーより発売しました。24年4月には第3弾として「東北産地応援」、24年10月に第4弾「沖縄県産黒糖」をテーマとした商品を発売する予定です。同協議会では、引き続き産地応援に取り組みしていきます。

輸出対策部

青果物の輸出拡大に向け
産地づくりの支援をスタート

全農では、米や畜産物の輸出拡大の取り組みに加えて、青果物の輸出産地づくりの支援に取り組みんでいます。

青果物は国内市場向けに生産されたものが、市場経由で海外に輸出されることが多く、輸出向け産地としての取り組みが遅れている現状があります。その結果、輸出先の輸入規制に対応できず廃棄されたり、海外市場において価格競争に陥るなどの課題があります。



山形県本部と「輸出産地づくり会議」を開催

輸出入人材育成を目的とした青果物輸出関連講義を実施

こうした課題を解決するために、農林水産省・JA全中、農林中央金庫と連携し、現地の輸入規制やニーズなどに対応した輸出産地づくりの支援を進めています。

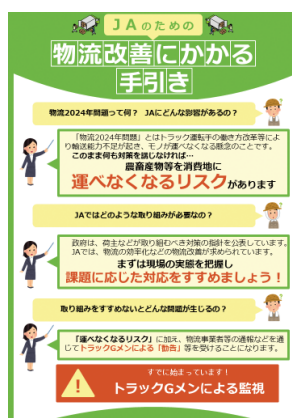
今後、JA全農インターナショナル(株)や海外現地法人を活用した独自のバリューチェーンの拡大に取り組み、輸出事業の拡大を通じて、生産基盤の維持・拡大と生産者の所得向上を目指します。

経営企画部

IT・DX戦略や物流問題など
全会的な課題を統括

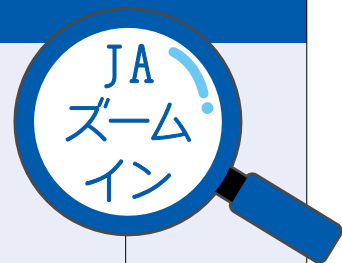
全農では事業計画・実績の取りまとめ、グループ経営戦略の立案、JA支援といった、会の経営企画全般にかかる業務に加えて、近年課題となっているIT・DX戦略や2024物流問題について全会的な視点で取り組んでいます。

物流では2024年問題が迫る中、本会は「自主行動計画」を公表するとともに、全中と共同で「JAのための物流改善にかかる手引き」を作成し、周知を図りました。来年度は規制措置の法制化も見込まれており、持続可能な物流体制の強化に取り組みます。



全中と共同で作成した「JAのための物流改善にかかる手引き」

物流では2024年問題が迫る中、本会は「自主行動計画」を公表するとともに、全中と共同で「JAのための物流改善にかかる手引き」を作成し、周知を図りました。来年度は規制措置の法制化も見込まれており、持続可能な物流体制の強化に取り組みます。



大麦「シユンライ」で農業振興

県・農業高校などと商品開発も

JA兵庫南 (兵庫県)



概要

2023年3月末現在

正組合員数	1万3982人
准組合員数	4万9071人
職員数	713人
販売品取扱高	39億4千万円
購買品取扱高	12億7千万円
貯金残高	6832億9千万円
長期共済保有高	8276億円
主な農産物	米、麦、肉用牛、 野菜、果実



西日本有数の大麦産地、5月には刈り一面が黄金色に染まる

兵庫県のJA兵庫南は明石市・加古川市・高砂市・稲美町・播磨町の3市2町をエリアとし、4つの営農経済センター、8つの農産物直売所、15の支店などで事業を行っています。管内北部は稲作・麦作を中心とする農地帯で、南部は阪神工業地帯の一部である播磨臨海工業地帯が広がる市街化地域です。

西日本有数の大麦産地 37営農組合などで414㍏

JA管内を含む東播磨地域は、西日本有数の大麦産地で、六条大麦の栽培が盛んです。

毎年5月には刈り一面が黄金色に染まり地域の風物詩にもなっています。2023年度は37の営農組合が主となり414㍏を作付け、荷受け重量は1644㍏となりました。収穫された大麦は稲美カントリーエレベーターで乾燥・調製され、麦茶の原料として出荷されています。

さらなる利用拡大へ 「大麦プロジェクト」始動

JAでは「東播磨に大麦あり」を根付かせるため、麦



開発した米粒麦(左)と大麦粉

茶以外での利用も検討しており、20年度から東播磨県民局・県立農業高校と連携し「大麦プロジェクト」に取り組んでいます。
麦を米に似た状態に加工した米粒麦や大麦粉を開発し、

学校給食に提供。兵庫大学とは連携協定を締結し、健康増進効果の臨床試験を行いました。22年度は同県民局・同高校・(株)オイスとの4者連携協定に基づき、大麦入りの「グラムチャウダー」や「ドレッシングサラダ」を成城石井・KOHYOなどのスーパーで販売。23年度には「しあわせ麦シフォン」を開発し、(株)ローソン・(株)ファミリーマートなどで販売しました。

農福連携による「六条大麦ストロー」、麦わらを使ったフィンランドの伝統工芸品「ヒンメリ」制作などにも取り組んでいます。来年度からは有機大麦栽培への取り組みも開始しました。昨今の大麦需要の高まりに応えるために、作付面積の拡大とともに単収・



「しあわせ麦シフォン」(左)と大麦入り「グラムチャウダー」「ドレッシングサラダ」

品質の向上を目指し、「大麦シユンライ」で地域の農業振興「農業所得の増大」を実践していきます。

「東北六県絆パックごはん」を販売中

自慢のお米を手軽に食べ比べ 6食入りと12食入り

全農は、全農東北プロジェクトの新商品として、東北6県の銘柄米を使用したパックごはんセット「東北六県絆パックごはん」を、JAタウンや東北地区の量販店などで販売しています。

【米穀部】



東北6県銘柄米パックごはんの食べ比べを楽しめる

全農東北プロジェクトは、東北6県自慢の農畜産物をより多くの方々に伝えるため新しい事業に挑戦する取り組みです。今回は各県自慢の銘柄米を紹介するとともに、手軽に食べていただきたいという思いから「東北六県絆パックごはん」を発売しました。

「青天の霹靂」「銀河のしずく」「だて正夢」「サキホコレ」「雪若丸」「福、笑い」のパックごはんを詰め合わせたセット



パッケージにも各銘柄米の個性が光る

で、それぞれの銘柄米の食べ比べを楽しむことができます。6食入り(各1食)と12食入り(各2食)のセットがあり、家庭用としてだけでなく贈答用としてもお薦めです。



6食入りセット
(各150g)



12食入りセット
(各150g)



JA全農の産地直送通販サイト

にじ農業協同組合

福岡県のJAにじ管内は古くから全国有数の甘柿の産地として知られ、柿の生産に合った気候と農家の技術により、高品質の柿が毎年出荷されています。

こちらの商品は、良く熟れた「富有柿」の中から、2Lサイズ前後の大玉を4、5枚にカットして作った半生タイプの干し柿です。うまみ・形・色などが良いものだけを厳選し、合成添加物・防腐剤などは一切使用せずに丁寧に手作りしています。

そのまま食べるのはもちろん、冷蔵庫で冷やしたり、アイスや料理に入れたりしてもおいしく召し上がれます。ギュッとつまんだ柿のうまみをぜひ味わってください。



柿チップ・「うきっ娘」100g10袋……6700円(税込み)

ご注文はこちらから



▶ JAタウンはこちらから <https://www.ja-town.com>
▶ お問い合わせは ☐ shop@ja-town1.com